

## 6月19日午前 中保育所において公開保育を実施！

参加保育園 14園

中保育所は昨年から、計3回目となる公開保育でした。今日の保育に至るまでの子どもの様子が分かる資料や、指導案を準備されており、今回の活動に至った経過が一目でわかるようにされていました。玄関には、各クラスのドキュメンテーションが貼られており、各クラス部屋の前には、日々のドキュメンテーションが時系列に掲示してありました。

幼児クラスは、「色水遊び～様々な素材の染め、温度の違いからの色水の変化」や「畑プロジェクト～近所の農家さんとの交流～」「どろんこ遊び」を前庭を中心に展開。乳児クラスは、「感触遊び～片栗粉粘土、泥、水」「表現遊び～マジックやクレヨンで絵を描く、音に合わせて体を動かす等」をそれぞれの年齢に合わせて、室内や中庭の様々なところで、自由に展開されていました。

神戸大学大学院 北野幸子先生から、保育士の誘いかける言葉、問いかける言葉に変化が出てきたこと、子どもの語彙が増えてきたことを評価していただき、指導・助言をいただきました。

今回は、活動を振り返る場面（幼児クラスのみ）も公開され、保育士と子どもとのやりとりを通じて、今後の遊びにつながっていく様子も見ることができました。

永福保育園  
岡田保育園  
さくら保育園  
タンポポハウス  
なかすじ保育園  
東山保育園  
ルンビニ保育園  
八雲保育園  
やまもも保育園  
中保育所  
東保育所  
東・南・西乳児保育所

## 子どもの遊びの姿や展開のイメージが具体的でかつ、多いほどねらいに合わせたかかわりを持つことができる



## &lt;色水遊び&gt;

4歳児の部屋では、朝から紫タマネギや給食室からもらった野菜の皮の煮出しをしていた。これまでからも、いろいろな野菜を使って試しており、子ども達も慣れている様子。煮出した色水を使っての色水遊びを展開。氷・レモン・炭酸・重曹等が準備されていた。ジュース屋さんの看板等も子ども達の手で作られており、何日もかけて遊びを作り上げてきた

様子が見られた。

## &lt;北野先生&gt;

◎遊びを通して、音、色、温度、変化等の気づきや発見が見られた。

◎素材については工夫が見られ、目的意識、保育のねらいが感じられた。

◎素材（氷）に子どもの関心が集中しがちであったので、素材の量や置く位置を考える必要がある。素材を介して、子どもと子どもがつながるような環境や声かけが大事。

◎空間の構成（環境）については検討の余地あり。ねらいによって教材の配置を考える必要がある。どのような配置にするかでのねらいの達成度も変化する。



## &lt;片栗粉粘土遊び&gt;

床の上にブルーシートを広げ、2歳児と担任保育士と一緒に片栗粉粘土で遊んでいた。

## &lt;北野先生&gt;

◎手の平でさわり、伸ばすようになでる子、指の間から垂らす子、友達の様子を見ている子、保育士にアピールする子、2歳児らしい感覚遊びの姿があった。

◎保育士が自然な形で加わり、さらに充実した遊びになっていた。夢中になって遊ぶ姿が見られた。

◎楽しむとはどうゆうことか、イメージが具体的でかつ、多いほどねらいに合わせたかかわりを持つことができる。

◎環境設定として、机であるのか、床であるのか、室内であるのか、外であるのか、という視点を持つことが大事。



## &lt;畑プロジェクト&gt;

子ども達の「じゃがいもを掘る時期を聞きたい」という声から、前日に決まった西川さん（保育所近隣の農家さん）との交流。

## &lt;北野先生&gt;

◎準備がされていない訳ではなく、しかし、イベントのような扱いでもない…子どもの声からわき上がった主体性のある保育が伺えた。

◎西川さんから教わったことを保育士が繰り返すことで、より子どもの中に学びを定着させていくことができる。また、保育士は、西川さんと子ども達の相互作用を促す役割もある。

◎子ども達からの西川さんに対する感謝の言葉は、言われているのではなく心から出ている言葉。

## &lt;遊びの振り返り&gt;

3～5歳児がクラスごとに今日の遊びを振り返る集会面があった。

## &lt;北野先生&gt;

◎振り返りをすることで活動の共有ができる、また、個々のコミュニケーション力、聞いて理解する力も育つ。

◎保育士対子どもだけのやり取りにならないように留意し、発表している子に聞いているクラス全体を意識させるようにする。

◎保育士は言葉をシャワーのように浴びせすぎないようにし、慣れるにつれて保育士の応答は少なくしていくとよい。

◎子どもに選択させるような言葉、考えさせる言葉、問いかけの言葉を多くする。



## 保育実践に完璧はない。考えて保育することが大事！

子どもの姿をより具体的にイメージすること 遊びの見通し、展開を想定すること～北野先生カンファレンスより～

◎保育の実践に完璧はない。その上でどれだけの準備ができているか、考えをまとめているか、かかわり方を意識できているかが重要である。

◎子どもが何をしがっているのか、何に興味を持っているのか、捉える力が必要である。そのために各年齢の発達をおさえ、イメージできるようにしておく必要がある。

◎保育の計画において、予測、見通しを持つことが大事。しかし、計画通りにいかなくてよい。子どもを主体とした相互作用の中で変化していくもの。

### <保育計画＝指導案>

◎遊び：その遊びが子どもの姿から出てき

たものか…つまり、子どものやりたいこと、知りたいことなのか？

◎ねらい：年齢や子どもの姿に合っているか？

◎評価の観点：ねらいを達成した時の子どもの姿を書く。○○するだろう、△△するだろう、こんなことを言うだろう…どんな風にして楽しむだろうというイメージをより具体的に想定する。

◎援助の方法、環境設定：イメージ、見通しを予測することで、援助の仕方・環境設定を書くことができる。

### <保育士のかかわり>

◎子どもの気持ちを大切に、言葉や気持ちに対して応答的に対応することができていた。

◎「～しなさい」「早く～して」「まだ、できないの」というような言葉は全く聞かれず、主体性を尊重したかかわりができていた。

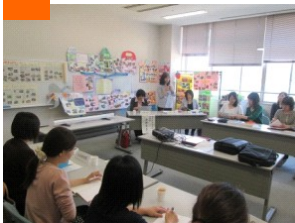
◎子どもに選択させるような提案の声かけや、「かわいいね」等の単なる感想にとどまらない意図的な声かけが見られた。

### <環境>

◎室内も外もコーナーを意識して、区切る。

◎素材は工夫されていたが、その量や置く位置、他の遊びとの距離等の空間構成は、今後意識していくとよい。

◎室内には、探究したくなるようなコーナーがあるとよい。



## 午後：各園によるドキュメンテーション報告及び、北野先生による助言・指導

午後からは、ドキュメンテーションの報告を昨年度から学んでいる東山保育園、ルンビニ保育園、中保育所の3園と永福保育園にいただきました。各園の特色をいかした内容でしたが、北野先生より、「保育に完璧がないのと同様、ドキュメンテーションにも正解はなく、改善・工夫の余地がまだまだある」ということを教えていただきました。

## 専門職において記録は義務！ 説明責任として発信する必要がある 保護者も育てていく…パートナーとして

### <専門性を高めるための記録>

◎ドキュメンテーションの中で、育ちや、他者とのつながり、興味関心の部分にねらい・5領域・園の方針を加えて書くと、集団保育、社会性の必要性がより伝わる。

◎単なる事実と感想に終わるのではなく、保育士の思いや願い、教育的意図をもっと伝える！「○○な力を育てたいから□□な環境を設定し、△△な言葉がけをしています！」と自信を持ってアピールすることが大切！！

◎学んだ内容だけでなく、その学びに至るまでの過程も伝えるようにする。

◎最後の締めくくりには「次は○○に興味を持っているので□□をやってみたいと思います！」と、保育士の意気込みも伝える。

### <トピックスの見つけ方>

◎保育士の指導保育の中で・遊びの中で・友達や保育士とのかかわりの中で、環境の中で。◎子どもの歓声が湧きあがったところがトピックスになる。クラス全体に広がる可能性を秘めている。

### <書く時の4つのポイント>

- ①子どもの会話と行動
  - ②保育士のねらいとかかわり
  - ③子どもの育ちと気付き
  - ④育った力、学んだ内容
- ◎保育の専門性を伝える手段であることを意識し、家庭の育児との違いを伝える。

### <先を見通した写真>

◎経験とは必ずつながっているものであ

り、保育士は、子どもの今の姿から次の学びや発見を予想する力が必要になってくる。

◎次につながるであろう姿を写真に捉えることで、保護者に対し、保育の中の学びの質をより強くアピールすることができる。

### <保護者への伝え方>

◎説明責任として、保育を発信する必要がある。

◎保育の中の学びや育ちを受け止める力を保護者にも育てていく必要がある。

◎支援される対象としてではなく、いっしょに保育、子育てしていくパートナーとしてかかわっていく。

## 明日につながる共有～1人の学びを共有することで全体の学びとなる～

### <主体性の尊重>

◎主体性を尊重するということは、子どもの興味・関心・探究心を大事にすることでもある。

◎主体的な保育を受けている子どもには学びが多く育つ。学習の基礎、人間関係の基礎が育つ。

- ①自分で調べる、何かに挑戦する
- ②知った、学んだ、誰かに伝えられた
- ③もっとしてみたい、知りたい
- ④①に戻り、繰り返す。学びのプロ

セスであり「意欲の連鎖」でもある。

### <自然・人・生活>

◎子どもの育ちに最も必要な要素は、「自然・人とかかわり・生活」である。

◎自然は、五感を使う機会を与えてくれる・感情が揺さぶられる・人工物ではない良さ等がある。

### <明日につながる共有を>

◎聞きたい気持ちと、伝えたい気持ちは同じ。

◎聞き合う場面、話し合う場面から学ぶことができる。

◎自己表現を十分に出しきり、それらをしっかりと受け止めてもらえた子が、人の話に耳を傾けられるようになる。

◎集会場面（共有の場面）において、実際の場面よりも遅れて共感してもらうことで、探究心がより深まる。

◎1人の学びを共有することで全体の学びとなる。